

1 目的

変化の激しい現代社会、状況に合わせて目標を立て、前向きに行動できる力を児童に身に付けさせることは、今日の教育の重要な課題であり、そのためには豊かな心の醸成が必要です。

本校は、学校名の由来ともなった戦国武将「福島正則公」の菩提寺である菊泉院を校区にもち、地域みなさんに温かく見守られ、協力していただきながら学校教育を進めています。保護者には卒業生も多く、地域の力は本校になくてはならないものになっています。

そこで、日頃から地域の方々と積極的に関わり、学校内外における自然体験や社会的活動を行うことを通して、地域の一員としての自覚をもたせ、地域の力を生かすことで児童の自己肯定感を高め、より健やかに育てていきたいと考えます。

2 内容

(1) 地域との連携

ア Project MASANORI

母校や地域を誇りに思う気持ちをもってこの学校を卒業してもらいたいと、各学年で「福島正則公」を中心に据え、様々な学習に取り組んでいます。「Project MASANORI」も8年目となり、児童の中に学年なりの「福島正則公」が浸透してきました。

「福島正則公」の終焉の地である長野県の小布施町立栗ガ丘小学校との5年生の交流学習も3年目を数え、タブレットとモニターを使ってzoom交流を数回にわたって行いました。顔合わせの自己紹介、自分たちが暮らすあま市について、そして自分たちで取材してまとめた、正則小の各学年で学習していることなどを発表しました。栗ガ丘小学校からは、山地のくらしや特産物、観光名所などを紹介してもらい、互いに質問し合いました。また、「堀川文化を支える会」より講師を招き、紙芝居を通して福島正則と堀川と名古屋の関係について学びを深めました。

4年生は、かつて福島正則公が城主となった清洲城を見学しました。また、「福島正則公」について楽しく学んでももらいたいと、地域のおはなし会ボランティアの方々が昨年考え、ITクラブの児童が作成した「正則クイズ」で楽しく学習しました。

3年生は地域探検で、正則公の生誕に関する建造物（菊泉院、石碑）などを見学し、菊泉院前住職による講話や座禅体験を行いました。

6年生は、地域で和菓子を製造販売している「芳春軒」店主を講師に迎え『ふく王くんまんじゅう』を作り、感謝の気持ちを込めて家族にプレゼントしました。また、これまで学習してきたProject MASANORIの学習について、各学年にも取材し、タブレットを使ってまとめ、5年生に発表しました。

また、2年生はふくおう君ピザを作り、1年生は福笑いならぬ「ふくおう笑い」を行うなどして、楽しく福島正則公とふれ合う機会となっています。



【5年 zoom 交流学習】



【4年 清洲城見学】



【3年 菊泉院訪問】



【6年 ふく王くんまんじゅう】

イ 農業体験学習

継続事業として毎年1～4年生が学校近くの畑を利用し、地域の農業委員さんのご指導で、サツマイモの植え付けと収穫を体験しています。加えて3年生は、郷土の農作物として有名な越津ネギの植え付けと収穫を体験させていただきました。

土に触れる経験が少なくなった今日、サツマイモやネギの植え付けや収穫は、とてもよい体験になっています。収穫後には、3年生が絵手紙でサツマイモを描き、農業委員さんに感謝の気持ちを届けました。

ウ 安全マップ作り

毎年6月の引き渡し訓練の下校時に、親子で通学路の危険箇所のチェックをしています。通学団会で、危険箇所を記入した地図を見ながら危険箇所を確認し、児童へ注意を促しています。そしてそれらの危険箇所を、校区の安全マップにフィードバックし、各家庭に配布することで、安全な登下校について意識の向上を図っています。

(2) 豊かな心の醸成と健康づくり

ア 合唱指導

歌声の響く学校は、児童の心を豊かにすると考え、朝や帰りの会で歌を歌うことや朝礼の後全校合唱の練習をするなど、歌う機会を確保してきました。11月末の「合唱発表会」に向けて、講師を招いて各学年が数回ずつ合唱指導をしてもらうことで、多くの児童が合唱のすばらしさを感じ取り、自信を持って歌うことができました。

また、2・3月には「卒業式」に向けた合唱指導をしていただきました。

イ なわとび教室

「体幹を鍛え持久力を高める」ことや「根気よく取り組む心を育てる」ことを目標として、1・3・5年生を対象に「なわとび教室」を行いました。講師に技のこつを教してもらい練習に励み、楽しそうにいろいろな技にチャレンジする姿が見られ、縄跳び週間や縄跳び検定でより上級の技をめざすことにつながりました。

(3) 指導力向上

ア 外国語の現職教育

岐阜聖徳学園大学の加藤拓由先生を講師に招き、校内現職教育として外国語の授業研究「相手意識をもってコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ～自分の思いや考えを「伝え合いたい」気持ちを育む言語活動を通して」を推進しました。言語活動を設定し、会話の続け方のコミュニケーションポイントを指導することや、Can Doリストで自分の学びを振り返ることを通して、自分の考えや思いを伝えられる児童を育成しています。また、研究授業の後、付箋紙を用いたワークショップ型の研修を行うことで、活発に意見交換ができ、教員の主体的な交流や若手教師の研修の機会となっています。

イ 児童理解と心を育てる教育の充実

令和を生きる子どもの理解と対応を学び、保護者とともに児童の支援を行うことができるよう研修をしています。今年度は、講師に臨床心理士の西川絹恵先生を招き、「元気な心のつくり方 ～レジリエンスを高めよう」という演題で講義を受けました。

3 評価と課題

アフターコロナの学校生活を模索する中、「Project MASANORI」の内容や、各学年の生活科や総合的な学習の時間を見直し、児童が正則小学校で実施できる取組や持続可能な取組を検討してきました。地域と共に存在し、地域に支えられている本校にとって、逆に地域に何かできないか、そんな思いに駆られてProject MASANORIに取り組んできました。年数を重ねることで「福島正則公」に親しむだけでなく、継続して受け継ぐ活動になりつつあります。